

【エクアドル内政・外交：2008年8月～9月】

1. 概要

- 8月13日 : コレア大統領、アルゼンチンを訪問
- 8月14日 : コレア大統領、パラグアイを訪問
- 9月12日 : コレア大統領、ペルーを訪問
- 9月15日 : 財務大臣の交替
- 9月23・24日 : サンドバル外務大臣、第63回国連総会に出席
- 9月28日 : 新憲法草案の信任を問う国民投票実施
: コレア大統領による勝利宣言
- 9月30日 : コレア大統領、ブラジルを訪問

2. 内政

(1) 国内遊説

選挙最高裁判所の決定により、8月13日より新憲法草案の可決を問う国民投票に関する選挙キャンペーンを8月16日グアヤキルにおいてスタートさせた。8月23日、キトに全国各県から多くの国民を動員し、賛成票を呼びかける大規模選挙キャンペーンを実施し、約2千台のバスを集結させ約14万人を動員した。全国42ヶ所に於いて選挙キャンペーンを行い、9月25日グアヤキルで締めくくった。

28日付当地主要紙「オイ紙」によると、46日間に及ぶ選挙キャンペーンに政府は17億7,617万ドル投資した。

(2) 新憲法草案の信任を問う国民投票

9月28日、新憲法草案の是非を問う国民投票が、平穩裡に実施された。同日、同国民投票の出口調査結果が発表された直後の午後5時過ぎ、コレア大統領は勝利宣言を行い、「本日、祖国は歴史的な日を迎えた。エクアドルは勝利を収めたのである。今次国民投票での Yes の圧倒的勝利は、市民革命が現実のものであるとの確認である。自分(コレア大統領)は、エクアドル国民に対し感謝するのみである。この勝利は、政府の勝利でもなく、大統領の勝利でもなく、政治運動組織の勝利でもなく、エクアドル国民の勝利である。自分(コレア大統領)は、国民が必要とする場所にこれからもいるだろう。本日、エクアドルは古い構造を打ち負かし、新たな国となったのである。反対派は、中央集権的であるとか、独裁的であるとか、様々な言いかかりをつけて国民を操ろうとしてきた。これら言いかかりは正しいかどうか、今後分かるだろう。また、このような意識操作に国民は騙されなかった。我々は、一歩たりとも後戻りはしない。未来のみを見て進んでいくのみである。これまで民主主義的手法で勝ち取ってきたように、今後ともに変革の道を進んでいこう。本日、Yes が圧倒的勝利を収めたわけであるが、国民の一致団結を呼びかけたい。Yes に票を投じた者であれ、No に票を投じたものであれ、共に貧困や嘘のない公平で公正な祖国を目指して進んでいこう。」と述べた。

(3) 財務大臣の交替

9月15日夕方、コレア大統領はウィルマ・サルガド・タマヨ(Wilma Salgado Tamayo)財務大臣を更迭し、16日、後任としてマリア・エルサ(Maria Elsa Viteri Acaiturri)女氏を任命した。

サルガド前大臣は、7月8日、イサイアス・グループ系列会社の接收を拒否し解任されたファウスト・オルティス(Fausto Ortiz)財務大臣の後任として任命され、預金保証庁(AGD)によるイサイアス・グループ系列会社接收に関し精力的に携わってきた。

9月16日、コレア大統領は、サルガド財務大臣に替わり、マリア・エルサ女史を任命した。エルサ新財務大臣は、オルティス前々財務大臣時代から財務省次官(Subsecretaria General)として務めていた。

コリア大統領は、サルガド前財務大臣の更迭の理由として「財務省役人幹部の中に“マフィア”があり、新憲法制定プロジェクトに20億ドルを使ったとウィルマ前大臣に伝え、記者メディアにリークした者がいる。実際は2億ドル以下である。我々は財務省にいる“マフィア”を許さない」と発言した。

3. 外交

(1) 第63回国連総会

9月23・24日両日、サルバドル外務大臣は、第63回国連総会に出席した。24日、サルバドル外務大臣は、第63回国連総会一般討論に出席後、アイスランド、シンガポール、トルコ、チリ、ベルギー及びスペインの他多くの国の外務大臣と二国間会談を実施した。同日、サルバドル外務大臣は、南米共同体加盟国首脳会合に出席した。同会合はバチエレ・チリ大統領のイニシアティブにより開催され、キルチネル・アルゼンチン大統領、モラレス・ボリビア大統領、ルーラ・ブラジル大統領、ウリベ・コロンビア大統領等が出席した。同会合では、ボリビア内政状況等につき協議された。

(2) 対ペルー関係

9月12日、コリア大統領はリマに於いて、ガルシア・ペルー大統領と会談した。アンデス共同体臨時代理議長(Presidente Pro tempore)の任にあるコリア大統領は、去る8月19日ボリビア政府から罷免請求されているエレルス(Freddy Ehlers)アンデス共同体(CAN)事務局長の件に関し、同罷免請求に正当な理由が全くないとしエレルス局長を支持する旨発表した。去る8月14日、ペルーが提案したアンデス共同体の規定修正要求に対し、エクアドル及びコロンビア両政府が支持した件に関し、コリア大統領は「エクアドルは米国との自由貿易協定(FTA)の締結を拒否した。ペルーが米国との自由貿易協定を締結することは、彼らの主権によって決定されたことであり、どのような方法でもそれを妨害することは出来ない。エクアドルはペルーの決定を尊重する」旨語り、ボリビアによる非難に対し反論した。

(3) 対ボリビア関係

8月10日ボリビアで実施された不信任国民投票の結果につき、エクアドル政府は、ボリビア政府及び同国民に対し、ボリビア不信任国民投票が実施され、民主的及び平和的な真の資質が確認されたことに祝意を表した。また、エクアドル政府は、民主的に選出されたモラレス大統領、有権者からの過半数の支持を得たモラレス大統領への支持を表明した。

(4) 対パラグアイ関係

8月14日、コリア大統領はパラグアイを訪問し、ルゴ次期大統領に対し「尊厳をもって公共の福祉や公平の方向にパラグアイを導いていこうとするその偉大な挑戦に対し、最上の運を祈る」と述べ、更に公平で尊厳と主権のある地域を追求する潮流に加わった兄弟国に祝意を表明した。

コリア大統領は、去る3月1日のコロンビアによる越境侵害に対するドウアルテ大統領の無条件の支持に謝意を表明し、「エクアドルは、非常に感謝しており、特にパラグアイには感謝している。我々は、パラグアイの無条件支持を忘れはしない。パラグアイは、去る3月1日に我々の北部国境にある隣国から越境侵害を残念ながら受けた直後、勇敢にも我々を支持してくれたのである。我々は、国際法及び真のラテンアメリカ主義に誠実なパラグアイとドウアルテ大統領に常に感謝するであろう。」と述べた。

(5) 対アルゼンチン関係

8月13日、コリア大統領はキルチネル亜大統領及びキルチネル前亜大統領と会談した。同会談では、南米諸国連合等の地域にとって重要なテーマが取り上げられた。コリア大統領は、同

会談を「非常に実りの多い興味深いものであった」と述べた。

(6)対ブラジル関係

30日、コリア大統領は、ルーラ・ブラジル大統領の招待によりブラジル・マナウスを訪問した。コリア大統領、ルーラ大統領、チャベス大統領、モラレス大統領は会談を行い、会談後の記者会見において、「我々はルーラ・ブラジル大統領からの招待により、マンタ・マナウス間複式路プロジェクトについて話し合うために喜んでマナウスにやってきた。4者会談では、同プロジェクト以外にも南米共同体(UNASUR)、南米銀行(Banco del Sur)、アンデス共同体(CAN)等他の統合テーマも取り上げられた。マンタ・マナウス間の通路は、太平洋岸と大西洋岸とを結ぶ通路となる上、パナマ運河を通ることを不要とする太平洋岸のアジア製品の玄関となるとともに、我々の製品のアジアへの輸出口ともなろう。」と述べた。更に、同大統領は、カラカスとマナウスを結ぶ通路の開設への関心も存在するとし、「統合への運命を背負った南米の横断路を意味し、これこそが今次マナウス訪問の目的である。」と述べた。

(7)対米関係

9月29日、コリア大統領は、外国プレス記者会見において、ブッシュ米国大統領の政策は酷い(terrible)ものであるにも拘わらず、エクアドルと米国との関係は尊重の関係である旨述べ、「少なくとも自分(コリア大統領)が大統領に就任してからは、両国はお互いに尊重して来ており、米国はエクアドルが主権国家であるということを理解している。」旨述べた。また、コリア大統領は、在エクアドル米国大使は常にエクアドル国内状況を十分尊重してきたとし、「ジュエル在エクアドル前米国大使はエクアドルのことを十分考慮し、内政干渉することは決してなかった。その逆に、ジュエル前大使と自分(コリア大統領)は、お互いに好感を持っているように感じていた。新米国大使にはお会いする機会が未だ持てずにいたが、今週あるいは来週には新米国大使や信任状を奉呈される他の大使にもお会いできることができればと思う。」旨述べた。

※以上は、当地新聞情報をつとまとめたものです。